

第26回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会

2012年10月27日（土）10:00～16:30

会場 明治学院大学白金キャンパス

＜基調講演＞ 10:00～12:00

「ソーシャルワークにおける プランニングの意義と実際」

講師：松端克文（桃山学院大学教授）

＊基調講演のみの参加も受け付けます。

基調講演要旨

ソーシャルワーク実践においては、プランニングが重要な位置を占めます。しかし、個別支援領域と地域診断や市町村での計画づくりなどのメゾ・マクロ領域とでは、共通性もあるものの、留意すべきポイントや具体的な方法論も異なってきます。また、個別支援でも対象が変われば、法制度の違いもあり、単純に同じであるとはいえません。

研修会では、ソーシャルワーク実践におけるプランニングの意義について講演の上、様々な領域におけるプランニングの実際について触れていきます。

主催：明治学院大学社会学部付属研究所

＜ワークショップ＞ 13:00～16:30

ワークショップA 「本人中心の個別支援の プランニング手法を学ぶ」

講師：桃山学院大学 松端克文 コーディネーター：明治学院大学 久保美紀

ソーシャルワーク実践ではプランニングは重要な位置を占めますが、個別支援領域だけをとっても、対象が変われば、法制度の違いもあり、単純に同じであるとはいえません。このワークショップでは、障害者・子ども家庭・女性・高齢者・低所得者等、さまざまな対象の差異をふまつつも、本人中心の個別支援としてのプランニングの意義や課題、これからのあり方などについて考えていくことにします。

ワークショップB 「地域ニーズのアセスメントと プランニング手法を学ぶ」

講師：山梨学院大学 竹端寛 コーディネーター：明治学院大学 茨木尚子

コンサル会社に丸投げすることなく、また単に住民アンケート調査でお茶を濁さず、「本物の声」に基づいて福祉計画を作るには、どのような仕掛けや工夫が必要か。そのためにどのようなデータを読み込む必要があるのか。どう足で稼げばいいのか。必要な官民協働とは何か。個別課題を地域課題にどう変換したらよいのか。これらの問いについて、ミニ講義の後、グループ毎に議論をしながら、実践現場で何ができるかを考えていただきます。

ワークショップC 「高齢者やその家族の地域支援の プランニング手法を学ぶ」

講師：富士宮市福祉総合相談課参事 地域包括支援センター長 土屋幸己
コーディネーター：明治学院大学 大瀧敦子

支援を必要としている高齢者やその家族はさまざまな課題を抱えており、単独の機関や専門職のみでは解決が困難なことがあります。その際には、多職種・多機関・インフォーマルサービス等ニーズに合わせてコーディネートしていく必要があります。そのためには、本人や家族が抱えている課題を明確にし、支援に必要なネットワークを構築し、支援計画の立案・実行・進捗管理をしていく必要があります。このワークショップでは、課題の明確化からネットワーク構築、具体的支援までを事例を通じて学びたいと思います。

・ ・ ・ 講師の紹介 ・ ・ ・

◆基調講演・ワークショップAの講師

松端克文（まつのはなかつふみ）先生のプロフィール

桃山学院大学社会学部教授

研究テーマや実践とのかかわり：

地域福祉の推進方法として、個別支援から地域支援（組織化～計画化）までを包括的に捉え、推進していけるような仕組みづくりについて研究中です。

奈良県地域福祉権利擁護事業契約締結審査会委員長、大阪府第4次障がい者計画検討委員会委員長、東大阪市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会会長、岸和田市障害者施策推進協議会会長、伊丹市福祉対策審議会委員、大阪市障害者施策推進協議会委員、和歌山県田辺市地域福祉計画策定委員会副委員長



◆ワークショップBの講師

竹端寛（たけばたひろし）先生のプロフィール

山梨学院大学法学部准教授

研究テーマや実践とのかかわり：

大学院時代の精神科病院でのフィールドワークを皮切りに、入所施設から地域移行された方々の聞き取り調査など、脱施設・脱精神病院と地域生活支援に関する研究を進めています。山梨に移住後は、障害者・高齢者の地域福祉に関するアドバイザーとして、地域自立支援協議会の実体化支援や、地域包括ケアシステムの構築に向けた市町村支援にも従事。三重県では5年前から障害福祉分野に関わる「市町職員エンパワメント研修」を手がけ、地域ニーズのアセスメントやプランニングに関する現任者教育にも携わっています。また、内閣府障がい者制度改革推進会議の総合福祉部会委員として、国レベルの政策形成過程の変容に向けた議論にも関わりました。



◆ワークショップCの講師

土屋幸己（つちやゆきみ）先生のプロフィール

富士宮市福祉総合相談課参事 地域包括支援センター長

研究テーマや実践とのかかわり：

障害福祉（知的障がい）分野で長く仕事をしていました。入所施設でいかに利用者の人権を擁護するかというテーマで長年実践をしてきました。現在は、地域包括支援センターで総合相談や地域包括ケアシステム構築への取り組みをしています。

一般社団法人静岡県社会福祉士会副会長、社団法人日本社会福祉士会地域包括支援センター支部支援委員会委員、成年後見支援センター「ばあとなあ静岡」委員、厚生労働省安心生活創造事業推進委員会会員、厚生労働省「生活困窮自立促進プロセス構築モデル事業」統括委員会委員



・ ・ 開催要項 ・ ・

(1) 開催日時 2012年10月27日(土)

基調講演10:00~12:00 ワークショップ13:00~16:30

(2) 会場 明治学院大学白金キャンパス2号館2201教室(基調講演の会場) (東京都港区白金台1-2-37) *ワークショップ会場は、当日ご案内します。

(3) 対象と定員

対象は、原則として現在社会福祉の諸領域にて、実践活動を行っている方です。

ワークショップの定員は各20名、計60名です(先着順)。

基調講演オープン参加は、関心のある方ならどなたでも参加できます。

(4) 参加費

●基調講演オープン参加：1,000円 当日受付にてお支払いください(申込要)。

●基調講演とワークショップ：3,000円

申込受付後、振込用紙を送付しますので、必ず事前にお振り込みください。

参加費振込後の返金には応じられませんのでご了承ください。

*ワークショップのみの申込は受け付けておりません。

(5) 申込方法

●基調講演オープン参加：

Eメール・FAX・TELのいずれかで申込先へお申し込みください。

●基調講演とワークショップ：

参加希望のワークショップを1つ選び、以下の所定事項を記入し、Eメールで申込先へお送りください(FAXも可)。折り返し、振込用紙を送りますので参加費を入金してください。参加費入金の確認をもって申込となります。

入金を確認しましたら(確認には1週間ほど要します)、事務局よりEメール(またはFAX)をお送りします。

1週間以上Eメール(またはFAX)への返信(振込票の送付含む)がない場合はお手数ですが、TELで再連絡をお願いいたします。

定員になり次第締め切ります。

振込控えが領収証となります。改めての領収証発行はできませんのでご了承ください。

研修会当日、振込控えをお持ちください。

<申込に必要な所定事項>

- ①氏名(ふりがな) ②所属先と職名 ③参加希望のワークショップ
④振込用紙等発送先の住所 ⑤本申込に関する問い合わせ先としてのTEL・Eメール・FAX
⑥社会福祉実践家としての経験年数 ⑦社会福祉実践に関わる所持資格(例：社会福祉士・精神保健福祉士等) ⑧明治学院大学卒業の方は卒業年度

<詳細・申込先>

明治学院大学社会学部付属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Eメール：

issw@soc.meijigakuin.ac.jp

TEL：03-5421-5204・5205

FAX：03-5421-5205

<明治学院大学白金キャンパス

へのアクセス>

- ・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線
「白金台駅」「白金高輪駅」、都営地下鉄浅草線「高輪台駅」より徒歩約7分
- ・JR・京浜急行「品川駅」高輪口下車、都バス「目黒駅」行で「明治学院前」下車
- ・JR・東急「目黒駅」東口(ロータリー側)下車、都バス「大井競馬場」行で「明治学院前」下車